

# 中国麗江市からの職員を受け入れ、 高山市で国際交流

岐阜県高山市海外戦略室

## 友好都市から研修員を受け入れ

高山市は、岐阜県の北部、飛騨地方の中央に位置し、東西に約81km、南北に約55kmあり、面積は2,177.61km<sup>2</sup>の日本一広い市です。面積の約92%は森林で占められており、山や川、渓谷、峠などで地理的に分断され、北東部には飛騨山脈（北アルプス）を擁し、標高差も2,000mを超えるなど、地形的に大きな変化に富んでいます。また、人口は約9万1,000人ですが、年間約4百万人の観光客を受け入れる観光都市でもあります。近年は全体に占める外国人観光客の割合が増加しており、2014年は約28万人（宿泊者数）と2年連続で過去最高値を記録しました。

高山市においては、市制施行50周年にあたる1986年4月に国際観光都市宣言を行って以来、外国語表記の案内板や路面板の整備や、官民一体で組織する飛騨高山国際協会の設立など、市全体で国際化の促進に取り組んできました。そのような取り組みの中、日本エアシステム（JAS）が1999年から関西空港－中国雲南省・昆明空港直行便を就航するにあたり、世界遺産に登録された雲南省・麗江地区（現在は麗江市）と日本の地区との友好都市提携仲介を依頼されました。これがきっかけとなり、高山市と麗江市は、美しい山々に囲まれた旧市街地に木造の伝統建築が美しく保全されているという共通点を有することから交流を開始し、2002年に友好都市提携を結びました。以降、両市の交流を促進するための具体的な方策を模索していたところ、自治体職員協力交流事業の活用により麗江市職員を受け入れることとしました。麗江市の職員が高山市の各行政分野で研修を受けることで、専門知識を習得し、それを帰国

後も活用していくことで、両市の友好交流を発展させることを目的とし、2004年度に第一期生の受け入れを開始しました。交流は継続し、2014年度までに同市より計17人の研修員を受け入れ、観光、農業、畜産、教育、文化財など、幅広い分野で実践的な研修を実施しています。

## 国際交流・文化財・観光の分野で 専門研修

2014年の研修では、麗江市より周嵐さんをクレアの事業である自治体職員協力交流事業の研修員として受け入れ、約9か月の研修を行ってきました。研修員の希望を踏まえて、主に国際交流、文化財、観光の3分野での専門研修を実施することとなりました。国際交流分野においては、中国などからの旅行会社やメディア、政府機関などの視察来訪時に、市内を案内して市の魅力を紹介したり、年2回開催される高山祭などの大きな行事の際に、来訪される中国人客への案内を行いました。さらに、毎週2回、市内の小学校に出かけて、



高山祭での案内風景

中国から日本に来て生活をしている小学生とのコミュニケーションを通じて、心のケアにあたるなど、非常に幅広い分野での交流を行いました。また、文化財の分野においては、当市の観光資源でもある古い町並（伝統的建造物群）や祭屋台に関する高度な知識を学ぶほか、実際に文化財の補修現場に立ち会ったり、大雪による被害の発生時には、文化財の被害状況の調査にも同行するなど、大変実践的な研修を行いました。研修の終期には、主に観光分野での研修を行いました。たとえば、駅前の外国人が多く訪れる観光案内所や、市内の観光施設において観光案内にあたるなど、同じく実践的な研修を行っていただきました。



駅前案内所での研修風景

## 研修員とプライベートの共有が大事

周さんは、来日直後のJIAMでの研修終了後も大変勤勉な姿勢で日本語や日本文化の学習にあたっていました。そのため、研修開始当初は、職員との日本語でのコミュニケーションに苦労をしている様子でしたが、研修終了までには日本語での複雑な説明にも対応できるようになりました。また、どんなことにも物おじせずに取り組んでいたことから、前述のような現場中心の研修にも積極的に携わることができたと考えています。本人の前向きな姿勢もあって大きな苦労などはありませんでしたが、受け入れ側が本人の希望をしっかりと踏まえながら現場の空気を肌で感じていただけるような研修機会を提供してきたことで、研修

へのモチベーションを維持していただけたものと思います。また、周さんにとっては初めての日本での生活となることから、精神面については常に気を配ってきました。それは研修実施中に限りません。たとえば一緒に忘年会に参加したり、夏は海へ、冬はスキー場に出かけたりと、プライベートの時間も共有することで、市職員とも次第に打ち解けていき、良好な関係が維持できたものと思います。

また、研修員がさまざまな部署で研修を実施する中で、部署内の職員がその真剣な取り組み姿勢に感銘を受けるなど、職員の活性化に影響を及ぼしたことは研修員受け入れの効果として挙げられます。従来実施していた事務事業や仕事への考え方などについても、外国人ならではの視点で意見をいただくことで、より多面的な視点で業務を見つめることができるなど、周さんが周囲に及ぼした効果も、また大きなものであったと思います。

## 今後の交流に向けて

今回の研修で麗江市からの研修員も17人となり、当市での生活・研修経験を持つ麗江市職員は着実に増加しています。今後も幅広い分野において研修員の受け入れを重ねることで、より両市の絆を深めていこうと考えています。

また、当市においては、2012年2月に海外戦略ビジョンを作成し、国際観光や輸出、国際交流を、相乗効果を発揮しながら一体的に推進していくこととしています。本研修事業についても、同ビジョンにおける「姉妹・友好都市との絆の強化」を図るための事業の一つとして位置付けています。両市の関係性を経済交流などの多様な分野で活用していくため、研修員が帰国した後も関係性を保ちつつ、それを活用するための具体的な施策を計画・実施していくことが必要であると考えています。事業内容を改善しつつ、今後も麗江市からの研修員受け入れを継続することで、帰国後も研修員が両市の架け橋となって相互交流を強化していくことを期待しています。